

「ひろしまラウンドテーブル2026」の開催について

1 要旨・目的

「国際平和拠点ひろしま構想」に掲げる「核兵器廃絶のロードマップへの支援」及び「核軍縮と平和構築のための研究集積」を具体化するため、今後1年の核リスクの調査・分析・評価や、国際社会に対する早期警報、核リスクに対処するための政策提言を行う「ひろしまラウンドテーブル」を開催する。

2 現状・背景

- 核兵器のない平和な国際社会の実現に向けて、核軍縮・不拡散の進展を支援するため、国内外の軍縮・安全保障の研究者や元政府高官等が参加して、非政府レベルで多国間協議を行っており、会議の成果を、議長声明や「ひろしまウォッチ」（令和6、7年度）としてまとめ、国際社会に向けて政策提言してきた。
- 平成25年度に第1回を開催し、今回で13回目の開催となる。
※新型コロナウイルス感染拡大により中止となった令和2年度を除き、毎年開催。
- 核兵器を巡る国際情勢が厳しさを増す現状を踏まえ、今年度は、核軍縮の着実な進展に貢献できるよう、NPT運用検討プロセスや各国政府の政策形成において活用しやすい、より具体的に実務的な政策素材を提示する形に変えて実施する。

3 概要

(1) 実施主体

広島県、へいわ創造機構ひろしま(HOPe)

(2) 開催日

令和8年9月2日（水）、3日（木）

(3) 場所

エソール広島 研修室1、2（広島市中区大手町1-2-1 おりづるタワー10階）

※ 対面参加とオンライン参加によるハイブリッド方式

(4) 内容

今後1年の核リスクの動向を調査・分析・評価した上、どのような核リスクが、どこでどの程度深刻化しているかを特定し、国際社会に早期警報を発するとともに、その分析結果を踏まえて、政策立案者や市民社会に向けた政策提言を行うための「広島発 核リスクの早期警戒と政策提言（仮題）」（以下、「報告書」という。）をまとめる。

【報告書の主な特徴】

① 核リスクの可視化

核軍縮・安全保障・不拡散・地域安全保障分野に係る世界の研究機関・大学に対して、今後1年で懸念される世界の核リスクの事象とその深刻度合について、調査を実施する。これをもとに、今後1年の核リスクを調査・分析・評価し、ランク付けすることにより視覚的に理解可能なものにする。

② 政策提言の発出

核リスクを分析・評価した上で、各国政府・国際機関等の政策立案者や市民社会等に向けた具体的な政策提言を行う。

(5) 参加者

国内外の研究者・政府関係者等 15 名（予定）

（敬称略、姓の五十音順）

	国 名	氏 名	所 属 等
1	日本	秋山 信将	一橋大学大学院法学研究科教授 日本国際問題研究所軍縮・科学技術センター所長
2	日本	阿部 信泰 (9/2 のみ*)	元国連事務次長（軍縮問題担当）
3	フランス	アルベサル・ティモテ	日本国際問題研究所軍縮・科学技術センターフェロー
4	日本	石田 淳	広島市立大学広島平和研究所所長・教授
5	ベトナム	ドー・フン・ヴィエット	国連ベトナム政府代表部常駐代表 第 11 回 N P T 運用検討会議議長
6	日本	新宮 清香	外務省軍縮不拡散・科学部調査班班長
7	韓国	趙 琵琶 (チョ・ビヨン)	世宗研究所フェロー
8	日本	戸崎 洋史 *	広島大学平和センター准教授
9	中国	趙 通 (ジャオ・トン)	カーネギー国際平和財団 シニアフェロー
10	アルゼンチン	グスタヴォ・スラウビネン *	在ウィーン国際機関アルゼンチン代表部大使 第 10 回 N P T 運用検討会議議長
11	インド	マンプリート・セティ	インド空軍力研究センター (C A P S S) 特別フェロー
12	米国	ジャック・ハイマンズ	広島市立大学広島平和研究所教授
13	エジプト	カリム・ハガグ *	ストックホルム国際平和研究所 (S I P R I) 所長
14	ロシア	アントン・フロプコフ	エネルギー・安全保障研究センター (C E N E S S) 所長
15	米国	ジェフリー・ルイス	スタンフォード大学国際安全保障・国際協力センター 上級研究員

※ 氏名の右に*を付した者はオンライン参加

(6) スケジュール案

○ 9月2日（水）

時 間	項 目	内 容
10:30～10:45	開会	横田広島県知事等挨拶
10:45～12:30	セッション 1	事業の概要説明・報告書の構成の検討
13:45～15:15	セッション 2	核リスクの評価・優先順位付けの検討
15:30～17:30	セッション 3	政策提言内容の検討

○ 9月3日（木）

時 間	項 目	内 容
10:15～12:15	セッション 4	報告書の最終調整
12:15～12:30	閉会	閉会の辞
14:45～15:15	記者会見	会議成果の発表

(7) 成果の発表

会議の成果について、9月3日（木）に記者会見を開催し、発表する。

4 公開イベント ※チラシ：別紙のとおり

(1) 趣旨

ひろしまラウンドテーブルの成果を県民に公開するため、公開イベントを開催する。

(2) 日時

令和8年9月3日（木） 15:30～17:00

(3) 場所

エソール広島 研修室1、2（広島市中区大手町1-2-1 おりづるタワー10階）

(4) 実施主体

【主催】広島県、へいわ創造機構ひろしま(HOPe)

【協力】日本国際問題研究所軍縮・科学技術センター

(5) テーマ（仮題）

核兵器を巡る世界のリスクと対応策 ―「ひろしまラウンドテーブル」成果報告会―

(6) 次第

○ 開会挨拶：横田美香（広島県知事）

○ 基調講演：ドー・フン・ヴィエット（国連ベトナム政府代表部常駐代表、第11回NPT運用検討会議議長）

○ パネルディスカッション：

〔モデレーター〕

秋山 信将（一橋大学大学院法学研究科教授、日本国際問題研究所軍縮・科学技術センター所長）

〔パネリスト〕

・ドー・フン・ヴィエット（国連ベトナム政府代表部常駐代表、第11回NPT運用検討会議議長）

・マンプリート・セティ（インド空軍力研究センター（CAPSS）特別フェロー）

・ジェフリー・ルイス（スタンフォード大学国際安全保障・国際協力センター上級研究員）

(7) 開催方法

対面とオンラインでのハイブリッド形式

(8) 参加者

80名程度（対面）

5 予算（単県）

13,670千円

6 その他（関連情報）

国際平和拠点ひろしま（広島県HP）[ひろしまラウンドテーブル]

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hiroshimaforpeace/about-h-roundtable.html>

核兵器を巡る世界のリスクと対応策 （「ひろしまラウンドテーブル」成果報告会）

厳しい国際情勢の中、これからの1年間に、どのような核リスクが考えられるか？どのように対応するのか？
「ひろしまラウンドテーブル」では、国内外の第一線で活躍する有識者が、今後1年の核兵器を巡る動向を展望して核リスクを特定し、国際社会が採りうる政策について議論しました。

※「ひろしまラウンドテーブル」は、核兵器のない平和な国際社会の実現に向けて、国内外の専門家が核軍縮・軍備管理をめぐる課題と、その進展に必要な政策について議論する国際会議です。（広島県、一般社団法人へいわ創造機構ひろしま(HOPe)主催）
本成果報告会では、会議参加者が、議論の内容と成果を自ら報告します。この分野をリードする専門家の知見に直接触れられる貴重な機会です。ぜひご参加ください。

【日時】 2026年9月3日(木) 15:30~17:00
【会場】 エソール広島 研修室1、2（広島市中区大手町1-2-1 おりづるタワー10階）
※チラシ下部の地図参照

【次第】

- 開会挨拶：横田美香
（広島県知事、(一社)へいわ創造機構ひろしま会長(HOPe)）
- 基調講演：ドー・フン・ヴィエット
（国連ベトナム政府代表部常駐代表、第11回 NPT 運用検討会議議長）

○ パネルディスカッション

【モデレーター】

秋山信将：

一橋大学教授、日本国際問題研究所 軍縮・科学技術センター所長

【パネリスト】

ドー・フン・ヴィエット：

国連ベトナム政府代表部常駐代表、第11回 NPT 運用検討会議議長

マンプリート・セティ：

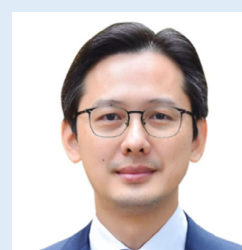
インド空軍力研究センター(CAPSS)特別フェロー

ジェフリー・ルイス：

スタンフォード大学国際安全保障・国際協力センター上級研究員



横田美香
広島県知事
(一社)へいわ創造機構ひろしま会長



ドー・フン・ヴィエット
国連ベトナム政府代表部常駐代表、
第11回 NPT 運用検討会議議長



秋山信将
一橋大学教授
日本国際問題研究所 軍縮・
科学技術センター所長



マンプリート・セティ
インド空軍力研究センター(CAPSS)
特別フェロー



ジェフリー・ルイス
スタンフォード大学国際安全保障・
国際協力センター上級研究員

【参加者】 80名(対面) ※ハイブリッド開催
【通訳】 日英同時通訳あり
【申込締切】 2026年8月31日(月)
【主催】 広島県、(一社)へいわ創造機構ひろしま(HOPe)
【協力】 (公財)日本国際問題研究所 軍縮・科学技術センター

参加登録はこちらから⇒



○原爆ドーム側の入口ではなく、地図記載の南側の入口からご入場ください。